

近年、細菌の薬剤耐性が問題となっています。これは、抗菌薬の使用に伴い病気の原因となる細菌が変化し、抗菌薬が効きにくくなる、あるいは全く効かなくなるというものです。抗菌薬とは細菌を壊したり、増殖を抑えたりして感染症を治療する薬です。抗菌薬の薬剤耐性に何の対策も講じないと、2050年には薬剤耐性が原因で死亡する人が全世界で1000万人を超えるというデータがあります。この問題に対して医療従事者が取り組むのはもちろんですが、医療を受ける皆さんもできることがあります。

「風邪をひいたら抗生物質（抗菌薬）を飲めばすぐに治るよ」という声を聞きます。これは大きな間違いです。ほとんどの風邪

ちよつと得する
クスリの知識

<105>

抗菌薬耐性 問題意識持つて

はウイルスが原因です。感染したときには発熱など同じような症状が出ますが、細菌とウイルスは全く違う性質を持ちます。鼻水や咳、喉の痛みなどを伴う風邪、インフルエンザなどのウイルスによる感染症に抗菌薬は効きません。これらの病気は、基本的には薬を使用しなくても自然に治っていきます。

細菌が原因の病気と診断されたときには、抗菌薬を正しく使用することが重要です。処方された抗菌薬を医師から指示された用法、用量、日数をしっかりと守り、飲

みきってください。量や服用日数を減らすなど、中途半端な服用は薬剤耐性を引き起こす原因となります。また、薬が余っても、後で服用したり誰かに譲ったりしないでください。ワクチン接種や手洗い、咳エチケットなど、日頃から感染症を予防することも大切です。

・この問題は、全ての人が一丸となって取り組むべき課題です。できることから始めていきましょう。

(竹下 秀司・県病院薬剤師会理事)

<毎月第4火曜日に掲載>